時事新報

明治十八年十一月十二日（木曜日）
舊乙酉十月六日（辛、未）
日出午前六時三十四分 日入午後四時五十四分 月出午前十時四十八分 月入午後九時二十二分 滿潮午前八時三十九分 滿潮午後八時五十七分
（西曆一千八百八十五年）

一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵稅一箇月金廿六錢 一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲クル各地ニ於テハ郵送無料ニテ配達致候

東京 横濱 横須賀 從神奈川至小田原驛 函根七湯 大坂
京都 大津 神戸 尾ノ道 福山 笠岡 岡山 廣島
和歌山 德島 高知 下ノ關 名古屋 岐阜 岡崎 豐橋
四日市 津 松坂 山田 仙臺 福島 二本松 石ノ卷
函館 青森 弘前 宇都宮 高崎 八王子 千住 草加
越ケ谷 粕壁 杉戸 幸手 久喜 關宿 千葉 登戸
寒川
其各地近傍配達便宜ノ個所ハ同シク郵送料不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九五	五錢六厘
自三十一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八五	五錢五厘	五錢二厘
五十一行以上	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

時事新報

○交通に內外の別なるを忘るべからず

交通を便利にするは國の富強を進め人民の智識を開くの基本たるべきことと我輩の數々論ずる所にして今復た之を反覆するに及ばず然れ共我輩が交通の事を論ずるに當りて忘る可からざることは交通に國內國外の差別あることなり例へば日本の沿海に漕運の便を增し內地の四方に鐵道を敷設し或は運河を掘り道路を開き又は電線を增架し郵便法を改良する等は總て國內の交通を便利にするの方法にして其目的は手短かに云へば日本國中にて都會と田舍との關係を親密ならしむるに在るものなり又廣く海外諸國に貿易の道を開き彼此の間に定期航海船の往來を繁くし日本人は益々多く外國に出で外國人をば益々多く日本に誘ひ留め日本人と外國人と直接に面を接して相交はるのみならず彼此の間に文書往復の數を增し又書籍新聞紙等の輸入輸出を增し又間接に西洋の智識學問を日本に輸入するが如きは總て國外の交通にして其目的は手短かに云へば世界の都會たる歐米諸國と世界の田舍なる日本との關係を親近ならしむるに在るものと謂ふべし此二種の交通とも二つながら大切にして固より其一方を偏廢すべからざるは素より論なしと雖ども茲に我輩が一言せんと欲する者は今日世人が交通は大切なりと云へる其交通とは專ら國內の交通を指すものにして其言葉の中には國外の交通の意味を含蓄せざるもの、如くなれ共今の日本の有樣にては獨り國內の交通を便利にするのみにては未だ足らず必ずや之と同時に國外の交通をも便利にせざるべからずとの一義に在るなり

國內の交通を便にするは甚だ大切なり其大切なる次第は我輩が毎度此紙上に論ずる通りにして固より我輩に於て異論あるにあらざるのみならず飽までも賛成する處なれ共之を贊成する傍には又自ら顧みて國內の交通便利を極めたる時に日本の有樣は如何なるべきやと考へざるべからず今假りに日本政府が英斷を以て國中縱横の鐵道を敷設したりとせば邊鄙の地方も忽ちに都會に接近して百般の事柄に付大に從前の面目を改むるに至ることもある可く鐵道の利益何程廣大なるも到底日本全國が東京大坂の如き都會の地と同等の位に達するより上に上ると能はざるは明白なるべし左りながら東京大坂は唯世界の片隅なる日本國中にての都會にして歐米の文明國と比較する時は是亦田舍の田舍たるに過ぎざれば國外の交通今日よりも一層の便利を增さゞる限りは日本國內に交通は便利を增したるより生ずる最上の結果は唯日本國內の田舍が一變して世界の田舍となる迄にして大小の別こそあれ到底其田舍たるは免かるべからず故に國內の交通を便利にして日本の田舍と日本の都會に一變せしむると同時に又國外の交通をも盛んにして世界の田舍たる日本と世界の都會たる歐米文明國の地位に進ましむるの工夫こそ今の日本に取りて最も大切なることと思はるゝなり

國外交通は大切なるは今更多辨を須ゐず我國三十年來の進歩改良は其由來する處を尋ぬれば一として外國より來らざるものなし今の日本の文明は全く國外交通の結果なりとは三歲の童子も尚能く知る處ならん然るに今日日本の有樣を見れば三十年前の昔に比しては實に非常の進歩なれ共之を今日の歐米諸國の有樣に比すれば其相懸隔すると幾許なるを知らず加之歐米諸國も今尚文明進歩の中に在りて進歩改良一日も懈らず日に月に次第に其地位を高むるの勢なれば苟且にも日本が此間に於て文明國の競走に加はり之と衡軛を並べて甚しき不覺を取らざらんことを欲せば益々銳意熱心して外國の交際を務め彼に一發明一工夫あれば直ちに取りて之を利用し彼に一新說出づれば時を移さずして之を日本に傳へ亞細亞の東端に在る日本國として常に歐洲の中央に位するが如くならしめざるべからず左れば國外の交通は獨り過去の日本に大切なりしのみならず將來の日本に取りても亦必要欠くべからざるものにして或は其必要の度は過去よりも寧ろ將來の方こそ大なるべしと思はるゝなり

官報

○內務省告示第六十五號
長崎縣下長崎港ヲ發シ若クハ該港ヲ經又ハ該港ヲ發シ他港ヲ經テ來ル船舶ニ對シ明治十五年(六月)第三十一號布告虎列剌病流行地方ヨリ來ル船舶檢查規則實施ノ儀及告示置候處同港ハ虎列剌病終熄候ニ付同港ヨリ來ル船舶ニ對シ各府縣下諸港ニ於テ該規則施行停止セシメ候條此旨告示候事
明治十八年十一月十一日 內務卿 伯爵山縣有朋

○大藏省出納局に於て調査せる政府紙幣本年十月卅一日の流通現在高は左表の如し

紙幣種類	十八年十月末日流通現在額	十七年十月末日流通現在額
十錢札	五、五九二、二五九、〇八二	六、八〇三、〇三六、二八二
二十錢札	三、六六九、三一二、九〇〇	四、八七八、九五四、八〇〇
半圓札	五、四六八、七七三、〇〇〇	七、〇二一、一八一、五〇〇
一圓札	一四、五八一、〇六五、〇〇〇	一九、七一八、六三九、五〇〇
二圓札	二、一二三、四〇七、〇〇〇	三、一二〇、七八四、〇〇〇
五圓札	三、〇五六、九八七、五〇〇	四、六七八、〇六七、五〇〇
十圓札	二、五五七、八七〇、〇〇〇	二、〇八四、七七五、〇〇〇
五十圓札	二七、〇〇〇、〇〇〇	四二、七五〇、〇〇〇
百圓札	七八、二〇〇、〇〇〇	九五、七〇〇、〇〇〇
小以紙幣(イ)	四〇、一五四、八七四、四八二	五七、四四三、八八八、五八二
二十錢札	一、五六二、三三四、七〇〇	一、一五二、〇四二、三〇〇
五十錢札	七七三、四〇六、七五〇	四九一、九七二、七五〇
一圓札	二六、一〇八、八〇一、〇〇〇	二二、八二九、三三六、五〇〇
五圓札	八、七六六、五五五、〇〇〇	六、七九九、七〇七、五〇〇
十圓札	一一、〇一四、五三〇、〇〇〇	四、六六三、四一〇、〇〇〇
小以新紙幣(ロ)	四八、二二五、六二七、四五〇	三五、九二六、三六九、〇五〇
(イ)(ロ)合計	八八、三八〇、五〇一、九三二	九三、三八〇、二五七、六三二

○濠國維也納日本公使館在勤外務書記官本間清雄は去る九日歸朝、宮田農商務權大書記官は足利色染講習所開業式へ臨場仰付られ一昨十日出發、檢事香取新之助は去る九日非職、外務省准奏任御用掛後藤猛太郎は去る六日願に依り御用掛被免(以上三件本年十一月十一日官報)

雜報

○佛國と緬甸との條約　緬甸在留の佛國領事が緬甸政府と秘密條約を取結びたりとの風說は一時世上に喧傳せしが過日の電報に據れば佛國外務卿フレシネー氏は佛國は未だ曾てかゝる條約を取結びたることなしと公言したりと云ふ然るに今又倫敦よりの電報ありとて十月中旬の或印度新聞の記する所を見るに佛國と緬甸との條約は既に本年一月十五日に當時佛國の首相たりしフエリー氏と緬甸の使節アトウーンとの間に調印濟となり佛國政府は二月七日に其條約書を代議院に下附し又其條約の說明書には佛國大統領グレヴヰー宰相フエリー及び商法會議所の會頭某の三名が調印したり此條約に據れば緬甸國王は佛國を除き他の國々に專商の特許を與ふることを得ざる筈なりと又フエリー氏が二月中緬甸使節に送りたる書中に豫て同氏と緬甸使節との間に交通ありたる事柄に關して兵器彈藥等を東京の諸港より緬甸に運送する一件は今後東京地方靜謐に歸し內地の交通も自由となりて兵器等の運送に指支なきに至らば直ちに其手續を議定すべし抔云へるとあり此報はフレシネー氏が緬甸と條約を結びたることなしとの言と撞着する處あれ共此條約調印の事は間違なき事實なる由ありと本年十月三十一日の支那メール新聞に見えたり

○白圭三氏　白圭三氏は佛國羅馬宗の主教者にして本名はジエー ジー ブランク(J. G. Blanc)といひ紀元一千八百六十七年佛國より支那に來り支那內地にて布教に從事すること凡ろ十年、深く支那語に通じ兼て漢文を學び通常の筆談に差支なきまでに熟練したれば七十七年彷に朝鮮に來り爾來今日に至るまで服裝を朝鮮に擬し飲食居室も亦た全く朝鮮の常民と同樣にして專ぱら布教に盡力し居れり氏は初め佛國を出でし以來今に十八年未だ曾て一度も本國に歸らず其の朝鮮に來りし以來は已が明治十五年に一度日本に赴き今年再び日本に赴き十月二十一日長崎出帆の靑龍丸にて朝鮮に歸り京城に入り込めり朝鮮にては今日に至るまで深く羅馬宗と惡み特に數年前までは之れを信ずるものと內外人民と論せず必らずこれを死刑に處せし程なるに氏はその間に在りて恐るゝ所なく布教に從事せしは何か別に期するところあらんなれども兎に角にろの勇壯なる實に感歎に餘りありと謂ふべし氏は今既に善く朝鮮語に通ぜたれども若し其面色をまて責ならしめたらんには吾と朝鮮人なりと言ふとも土人倘は且つ其眞僞を辨ずる能はざる程なりと朝鮮よりの通信中に見えたり

○鐵道工事　岐阜大垣間の同工事は此程より大に取急ぎ居るよしにて遲くも來年一月までには竣工の見積なりと云ふ

○直江津鐵道　越後直江津信州上田間の鐵道線路中信州の部は長野町より小市村と經て上田に通ずるよしにて目下小市村近傍を測量中なりと